

令和5年度

岩泉町立岩泉小学校報



しずがわ

令和5年度 第11号

令和5年 9月13日

文責 校長 吉田 浩規

防災共創授業～心理学から学ぶ防災～

8月30日（水）、防災・減災の日に併せて、5、6年生対象に、東北大学災害科学国際研究所の齋藤玲先生をお招きして、防災共創授業が行われました。

防災学習というと、災害のメカニズムを学んだり、避難行動のスキルを学んだりする機会は多くあると思いますが、災害時に自らがとるべき行動について、どのように判断して行動に移すのかということについて学ぶ機会はこれまでになかったと思います。実際に私たち大人も周りの人の考えや行動に知らず知らずのうちに合わせてしまったり、一部の人の考えだけに判断基準をおき行動を選択してしまったりすることがあります。認知バイアスという心理学の中の一つの視点から、いざというときに人はどのように考え行動するのかということ学ぶことで、一人一人の判断や行動について考えるよい機会になるのではないかと考え、齋藤先生に授業をしていただきました。

防災共創授業の 概要

【授業の目的】

私たちの「世界の見え方・考え方」を理解する。

【授業の内容】

- 1 心理学とは
 - ・心理学とは、人間の心について調べる学問のこと
 - ・認知バイアスは、心理学の中の認知心理学という分野に含まれる
- 2 私たちの人間の世界の見え方・考え方の特徴（認知バイアス）について
 - (1) 正常性バイアス
明らかな異常があったとしても、いつも通りだと考えてしまう
 - (2) 確証バイアス
自分の考えや思い、気持ちに合った情報ばかり集めてしまいがち
 - (3) 集団同調性バイアス
まわりの人の考えや行動に合わせてしまいがち
 - (4) 楽観主義バイアス
できごとを楽観的・プラス・ポジティブに考えがち
- 3 集団同調性バイアスの事例を考える（演習）

認知バイアスは、よい・悪いということではなく、誰もがもちうる心理傾向であり、バイアスはプラスに働くこともあれば、マイナスに働くこともあります。

例えば、災害発生時に、「ここは危ないかも。」と感じながらも、みんなが避難しなかったから、自分も避難しなかった。結果、誰も避難せずにたくさんの人がけがをしてしまった。

というのが、集団同調性バイアスがマイナスに働いた事例であり、一方で

「ここが危ないかも。」と感じ、誰か一人が避難したから、自分も避難した。結果、全員が避難してみんなが助かった。」というのが、集団同調性バイアスがプラスに働いた事例です。

このようにバイアスには両面の効果があることを理解したうえで、バイアスの裏の意味<まわりの人の考えや行動にあわせないこともできる>の存在を意識することも大切です。そうすることで、いざというときに、安易に周りに流されるのではなく、自分で判断し、行動できるようになるのではないかと考えます。

認知バイアスの存在を理解したうえで、「人間の世界の見え方・考え方」に気を付けながら、一歩立ち止まって考えることが大切であること、人間は誰もが完全ではないことをお互いが理解し合い、生活していくことが大切だと、授業を通して改めて考えることができました。



授業を受けた児童の感想

- 災害の時は落ち着いて考え、何が正しいのか判断するのが災害時には大切ということがわかった。
- 周りの人の考えや行動に合わせてしまうことにより、よいことと悪いことがあることが分かった。
- 周りにまどわされなくて生活したい。
- 勇気がないから言わないのではなく、勇気がなくても言えるようになりたい。

岩泉土木センター出前授業～土砂災害から命を守る～

9月5日（火）、岩泉土木センターの方をお招きし、土砂災害や洪水から命を守る力を身に付けることを目的に、4年生を対象に出前授業が行われました。

土砂災害の発生件数が年々増えてきていることを教わった後、模型を使って、土砂災害発生メカニズムや砂防ダムの効果を視覚的に学びました。

そして、授業後半には、学校近くの砂防ダムに見学に行き、学校を含む周辺地域を守っていることを確かめることができました。



授業を受けた児童の感想

- 砂防ダムがあれば土砂災害の被害は小さくなるということが印象に残っている。
- 災害が起こったときには、家の人と相談し冷静に判断して逃げたい。
- ふだんみることのできない砂防ダムをみることでよかった。